

令和 5 年度 宇陀市立榛原小学校 自己評価書（学校経営）

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目・指標	評価	成果と課題	課題の改善方策等	
Ⅱ 学 校 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	①学校経営目標・方針	・学校目標や経営方針の見直し明確にしたか。	B	B ・学校教育目標を職員会議において示すとともに、学校経営案および学校要覧に掲載し周知した。流行不易のもと今後見直しを図っていく必要がある。 ・学校経営方針と具体的な方向性を教職員にその都度示したが、十分とはいえない。 ・仕事量と学年配当のバランス、引継ぎ、後身育成を考慮して校務の分掌を行った。多くは有効に機能したが、仕事量では主任の負担が多い。 ・今年度より会議資料などをペーパーレス化した。印刷の時間が短縮され、その分を他の仕事に当てることができたが、負担軽減感はない。 ・行事のあり方については、提案ごとに見直しを図り、働き方改革や児童の負担軽減と考え合わせながら、スリム化等ができた。	・新しい時代のニーズを敏感に把握し、学校経営方針に反映していく。 ・地域や保護者の願いを共有した学校経営方針を示し、具体的な方向性について教職員の理解を得るようにしていく。 ・校務分掌にあたっては副主任を設けるなど主任に仕事が集中しない工夫が考えられる。 ・校務支援システムを有効に活用することによって、よりペーパーレス化を進めることができる。 ・行事のあり方や働き方改革についてより積極的に話し合う機会を設ける。	
			・学校経営方針と具体的な方向を教職員に示したか。	B			
		②校務分掌等の連携	・仕事量や学年配当のバランスを考慮した分掌となったか。	B			
			・取組の引継ぎや後身育成に考慮した校務分掌となったか。	B			
		③会議の運営	・ペーパーレス化を取り入れるなどして、時間短縮に努めたか。	A			
			・行事のあり方や働き方改革に関する話し合いの場を設定したか。	B			
	(2) 研究・研修	①校内研究	研究計画通りに実施し、研究紀要にまとめることができたか。	B	B ・各学年部で、教科をそろえた授業研究ができたので、系統的に見ることができた。 ・説明的文章に内容を絞って取り組んだことにより、各学年の実践から改善を図ることができたが、評価がむずかしかった。 ・スクールカウンセラーの先生に、学校の現状を聞き取った上で研修を行っていただいたことで研修内容を指導に生かすことができた。	・全体としては昨年度末から国語科、説明的文章にしほって計画を立てているが、各部会の活動を全体で共有できる場をもう少し増やし、計画が進んでいるかを確認し合うことが必要だ。 ・児童の読解力がついたかどうかは継続的な取組が必要なので、今年度の取組の資料を来年度に活用することが考えられる。	
			人材（講師）の活用が十分できたか。	A			
		②校内研修	学期 1 回以上の研修（現職教育）を計画的に実施することができたか	B			
			研修内容は自校の課題を踏まえた適切な内容を選べたか	A			
	(3) 危機管理 安全管理	①危機管理体制の整備	マニュアルの点検を行い、危機管理の共通理解ができたか。	B	B ・火事や不審者対応の避難訓練を実施し、避難経路や手順等を確認することができた。また、提案段階でマニュアルの見直しが行われた。 ・保護者参加の引き渡し訓練を実施することができた。 ・下校指導や見守り隊の協力、保護者の協力や意見をもとに、児童が安全に登下校できるように取り組むことができた。 ・消防署と連携し、救命の基礎やプール指導の留意点について、教員の研修を行った。また、警察署からスクールサポーターの方が来て、学校の様子を聞いてくださったり、近隣の様子を教えてくださいたりしている。	・それぞれのマニュアルは、その都度見直しを行い、よりよいものになるようにしていく。 ・今後も、家庭や地域との連携を深め、児童の安全意識を高める取組を進める。 ・警察署の方を招いての研修等を検討する。	
			学校安全計画は適切に作成されているか。	B			
			②安全指導の徹底	テーマを絞って避難訓練を行い、マニュアルの整備を進めることができたか。			A
				日常的に安全意識を高めるよう取り組んだか。			B
		③家庭や関係機関との連携	家庭や地域と連携を取りながら、取組を進めているか。	A			
			消防署や警察署と連携を図り、指導に生かしているか。	B			
	(4) 保健管理	①保健指導	学校保健計画は適切に作成されているか。	B	A ・担任だけでなく、養護教諭やスクールカウンセラーも児童の心身の状態を把握し、情報を共有することができた。 ・いじめ対策委員会、スクリーニング会議等、スクールカウンセラーを活用できた。 ・定期的に保護者を交えたケース会議を開くことで、家庭と連携した対応ができた。 ・教育相談ハンドブックを作成し、教育相談活動を全職員に周知できた。	・児童の心身の状態の変化について職員全体で共通理解し、教育相談や関係機関との連携を図るなど、児童の状況に応じた適切な支援・指導を行っている。 ・定期的な保護者を交えたケース会議の開催を継続していく。	
			児童の健康状態や心身の課題に応じた指導ができたか。	A			
		②心のケアや健康相談体制の整備	カウンセラーと連携して児童の指導にあたったか。	A			
			教育相談部を中心に必要に応じてケース会議を開き、家庭・関係機関と連携することができたか。	A			
	③関係機関との連携	学校医や保健センター等関係機関と連携した取組ができたか	B				
	(5) 保護者・地域との連携	①学校情報の発信	学校だより、HP、学年通信などで教育活動を地域や保護者に伝えているか。	B	B ・学校だよりや、学年通信を活用して、学校の様子や児童の様子を定期的に地域や保護者に紹介することができた。 ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、それぞれの行事への参加人数制限もなくなることができ、広く学校の取組を公開することができた。 ・環境整備（草刈り、剪定、飾りづくり）、授業支援、休み時間の見守り、登校時の児童の見守り、図書ボランティアなど、多方面で保護者や地域の方に協力していただいたおかげで、地域と学校が一体となって、教育活動に取り組むことができた。 ・幼保小連携では、交流会や連絡会を実施することができたが、時期等については検討していく必要がある。 ・小中連携では、スポーツテストの指導をしていただいたり、見学会や連絡会を実施したりすることができたが、交流という場は設定できなかった。 ・年 3 回、評議員会を開催し、授業や行事を見ていただいて懇談している。いただいたご意見は学校運営に生かしている。	・今後も地域コーディネーターと連携し、学校教育にご協力いただける方を募集し、各領域で人材バンク等を整備しながら地域の方々力を借りていきたい。 ・幼保小連携、小中連携は、お互い負担にならないような方法で、今後も続けていきたい。	
			メール発信システムを活用して、保護者への情報提供を行っているか。	B			
		②学校（授業）公開	授業参観、運動会等の行事で、学校の取組を公開しているか。	B			
③家庭・地域との連携		保護者や地域の力を学校教育に生かす機会をつくっているか。	A				
		④PTAの活性化	美化奉仕作業、バザー等PTAと連携した活動を行っているか。	A			
⑤校種間連携		保育所・幼稚園と連携した取組を実施しているか。	B				
		中学校と連携した取組を実施しているか。	B				
⑥学校評議員の活用		学期に 1 度は学校評議員会を開催し、学校評議員の意見を集約しているか。	B				
(6) 教育環境整備	①教育環境の整備	安全な学校生活を保障するため、定期的に安全点検を行っているか。	A	B ・定期的に安全点検を行い、その結果から学校で対応できるものは、すぐに改修し、難しいもの市教委に対応をお願いした。 ・予算の中で必要に応じて教材教具を購入し整備したが、整理整頓については十分な時もあり、使用するとき探さなければならないようなこともあった。	・教材教具の整理整頓については、使用者が責任をもって片づけ、教科担当者もチェックをしていく必要がある。		
		②教材教具の整備	職員の意見を聞き、教材・教具の整備を計画的に行っているか。			B	
		③教材教具の管理	教材教具を活用しやすいように整理整頓し管理しているか。			B	